

令和 6 年

稜 線

～令和 5 年中の山岳遭難・山岳警備活動～



岐 阜 県 警 察 本 部

目 次

第1 山岳遭難の発生状況

1 概況	1
2 過去10年間の発生状況	2
3 月別発生状況	3
4 主要山系別発生状況	4
5 目的別発生状況	4
6 態様別発生状況	5
7 年齢別遭難者	5
8 都道府県別遭難者	6
9 遭難者の山岳会等加入状況	7
10 遭難者の登山届提出状況	7

第2 山岳警備活動状況

1 山岳パトロールの実施状況	8
2 新穂高登山指導センターにおける常駐警備の実施状況	8
3 山荘における常駐警備活動等の実施状況	8
4 救助訓練の実施状況	8
5 警察航空隊の出動状況	9
6 遭難者の捜索救助活動状況	9

第3 山岳遭難防止活動

1 安全指導活動	10
2 広報啓発活動	11
3 山岳遭難対策協議会	11

～ 登山計画と登山届の提出について ～

～ 北アルプス地区・活火山地区における登山届の義務化について～

表紙写真

山岳警備隊北アルプス訓練

第1 山岳遭難の発生状況

1 概況

[令和5年中の岐阜県内における山岳遭難の発生状況]

発生件数133件（前年比＋4件）、遭難者143人（前年比＋2人）

区 分 年 別	発生件数 (件)	遭難者（人）					
			死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
					重傷	軽傷	
令和5年	133	143	18	4	38	23	60
令和4年	129	141	14	0	38	28	61
増 減	＋4	＋2	＋4	＋4	±0	－5	－1

[遭難者の内訳]

- 死 亡 18人（前年比＋4人）
- 行方不明 4人（前年比＋4人）
- 負 傷 61人（前年比－5人）
- 無事救助 60人（前年比－1人）

[主な特徴]

- 前年に比べ発生件数・遭難者ともに増加
- 単独登山者の発生件数が56.4％（75件）
- 月別では8月の発生件数が最多で18.0％（24件）
- 北アルプスでの発生件数が39.1％（52件）
- 主要山系以外での発生件数が53.4％（71件）
- 態様別では滑落・転落の遭難者が24.5％（35人）
- 年齢別では60歳以上の遭難者が48.3％（69人）
- 県外居住者の遭難者が68.5％（98人）



北アルプスにおける安全指導活動



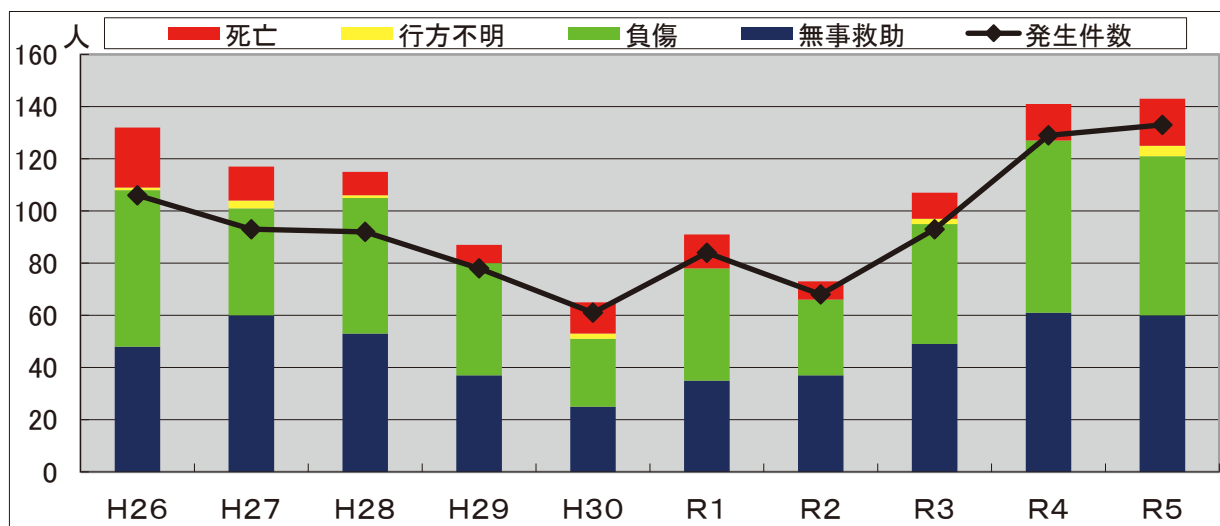
恵那山におけるパトロール活動

2 過去10年間の発生状況

年間の発生件数及び遭難者は増加傾向にあり、令和5年は過去10年間で最多となる。

[過去10年間の発生状況]

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
発生件数 (件)	1 0 6	9 3	9 2	7 8	6 1	8 4	6 8	9 3	1 2 9	1 3 3
(単独者遭難)	(39)	(40)	(31)	(39)	(35)	(33)	(40)	(44)	(63)	(75)
遭難者 (人)										
死 亡	2 3	1 3	9	7	1 2	1 3	7	1 0	1 4	1 8
行方不明	1	3	1	0	2	0	0	2	0	4
負 傷	6 0	4 1	5 2	4 3	2 6	4 3	2 9	4 6	6 6	6 1
無事救助	4 8	6 0	5 3	3 7	2 5	3 5	3 7	4 9	6 1	6 0



無線通話訓練



ストレッチャー搬送訓練

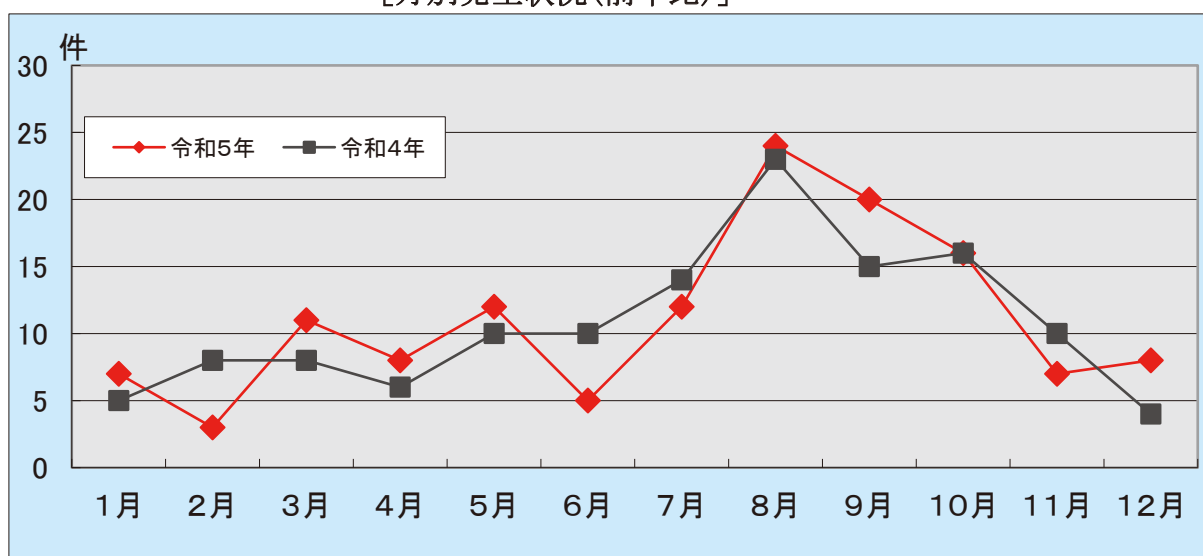
3 月別発生状況

8月の発生件数が最も多く24件（前年比+1件）で、全体の18.0%を占めている。

〔月別発生状況〕

区 分 月 別	発生件数 (件)	遭難者（人）					
			死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
					重傷	軽傷	
1 月	7	7	0	0	2	3	2
2 月	3	3	2	0	0	1	0
3 月	11	12	1	1	3	3	4
4 月	8	8	1	0	3	3	1
5 月	12	12	0	0	3	4	5
6 月	5	6	1	1	0	0	4
7 月	12	12	2	0	2	1	7
8 月	24	28	2	0	7	4	15
9 月	20	21	6	0	5	1	9
10月	16	19	3	1	3	3	9
11月	7	7	0	0	5	0	2
12月	8	8	0	1	5	0	2
合 計	133	143	18	4	38	23	60

〔月別発生状況(前年比)〕



4 主要山系別発生状況

主要山系別の発生件数は、北アルプスが最も多く 52 件（前年比＋3 件）で、全体の 39.1％を占めている。

主要山系以外の発生件数は 71 件（前年比＋2 件）で、全体の 53.4％を占めており、金華山 12 件、鳩吹山 5 件、大日ヶ岳 4 件など、比較的登りやすく人気が高い山での発生が増加している。

〔主要山系別発生状況〕

区 分 山系別	発生件数 (件)	遭難者（人）				
			死亡	行方不明	負 傷	無事救助
北アルプス	52	58	8	1	21	28
白 山	7	7	1	0	3	3
御 嶽 山	2	2	0	0	1	1
能郷白山	0	0	0	0	0	0
恵 那 山	1	1	0	0	1	0
そ の 他	71	75	9	3	35	28
合 計	133	143	18	4	61	60

5 目的別発生状況

登山による遭難者が最も多く 115 人（前年比＋2 人）で、全体の 80.4％を占めている。

〔目的別発生状況〕

区 分 目 的 別		発生件数 (件)	遭難者（人）					
				死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
						重傷	軽傷	
登 山 目 的	登 山	106	115	11	2	30	18	54
	ハイキング	3	3	1	0	0	2	0
	沢 登 り	3	3	1	0	1	1	0
	岩 登 り	3	4	1	0	2	1	0
	スキー登山	4	4	0	0	2	1	1
	小 計	119	129	14	2	35	23	55
渓 流 釣 り		1	1	1	0	0	0	0
山菜・茸採り		3	3	1	0	0	0	2
そ の 他		10	10	2	2	3	0	3
合 計		133	143	18	4	38	23	60

6 態様別発生状況

滑落・転落による遭難者が最も多く35人（前年比－3人）で、全体の24.5％を占めている。

[態様別発生状況]

区 分 態 様 別	遭難者（人）					
		死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
				重傷	軽傷	
滑 落 ・ 転 落	35	7	0	18	10	0
道 迷 い	29	0	0	0	1	28
転 倒	25	0	0	14	11	0
発 病 ・ 疲 労	31	6	0	0	0	25
そ の 他	23	5	4	6	1	7
合 計	143	18	4	38	23	60

7 年齢別遭難者

60歳以上の遭難者が多く69人（前年比＋4人）で、全体の48.3％を占めている。

[年齢別遭難者]

区 分 年 齢	遭難者（人）					
		死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
				重傷	軽傷	
14歳以下	1	0	0	0	0	1
15～19歳	1	0	0	0	0	1
20～29歳	0	0	0	0	0	0
30～39歳	9	1	0	3	2	3
40～49歳	24	1	1	5	4	13
50～59歳	39	5	1	9	8	16
60～69歳	37	6	0	10	7	14
70～79歳	24	5	1	8	0	10
80歳以上	8	0	1	3	2	2
合 計	143	18	4	38	23	60

8 都道府県別遭難者

県外居住者が98人（前年比－4人）で、68.5％を占めている。
このうち、愛知県居住の遭難者が最も多く28人（前年比－8人）であった。
なお、外国人の遭難者は7人（前年比＋6人）であった。

〔都道府県別遭難者〕

区 分 県 別	遭難者（人）					
		死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
				重傷	軽傷	
福 島	1	0	0	1	0	0
東 京	6	1	0	3	1	1
埼 玉	7	1	0	3	0	3
千 葉	4	0	0	2	1	1
神 奈 川	4	1	0	0	1	2
新 潟	1	0	0	0	0	1
長 野	2	0	0	2	0	0
静 岡	2	0	0	1	0	1
富 山	8	1	0	1	0	6
石 川	1	0	0	1	0	0
岐 阜	45	4	2	8	13	18
愛 知	28	5	1	8	3	11
三 重	3	0	0	2	0	1
滋 賀	4	1	0	2	0	1
大 阪	8	1	0	2	2	3
兵 庫	9	1	0	1	1	6
奈 良	1	0	0	0	0	1
和 歌 山	1	0	0	0	0	1
大 分	1	1	0	0	0	0
外 国 人	7	1	1	1	1	3
合 計	143	18	4	38	23	60

9 遭難者の山岳会等加入状況

遭難者のうち133人が未加入であり、全体の93.0%であった。

[遭難者の山岳会等加入状況]

区分 加入組織別	遭難者（人）					
		死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
				重傷	軽傷	
社会人山岳会等	10	1	0	4	2	3
大学山岳部等	0	0	0	0	0	0
未 加 入	133	17	4	34	21	57
合 計	143	18	4	38	23	60

10 遭難者の登山届提出状況

発生件数のうち登山届を提出していたのは51件（前年比+2件）で、全体の38.3%であった。

北アルプスの発生件数のうち登山届を提出していたのは42件（前年比+2件）で、北アルプスの発生件数の80.8%であった。

[登山届提出状況]

区分 提出別	発生件数（件）			遭難者（人）					
		北アルプス	その他		死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
							重傷	軽傷	
提 出	51	42	9	57	9	1	14	7	26
未提出	82	10	72	86	9	3	24	16	34
合 計	133	52	81	143	18	4	38	23	60

※ 北アルプスにおける遭難者の登山届提出状況（過去5年間）

令和5年中	提出42件（提出率 80.8%）	未提出10件	合計52件
令和4年中	提出40件（提出率 81.6%）	未提出 9件	合計49件
令和3年中	提出23件（提出率 76.7%）	未提出 7件	合計30件
令和2年中	提出22件（提出率 88.0%）	未提出 3件	合計25件
令和元年中	提出43件（提出率 91.5%）	未提出 4件	合計47件

第2 山岳警備活動状況

1 山岳パトロールの実施状況

北アルプスにおける山岳パトロールを通じて、登山者に対する安全指導や登山道の危険箇所の点検等を29日、延べ60人で実施した。

2 新穂高登山指導センターにおける常駐警備の実施状況

登山者が増加する時期には、北アルプスの岐阜県側登山口に所在する「新穂高登山指導センター」に岐阜県警察山岳警備隊員が69日、延べ69人が常駐し、登山者に対する安全指導や山岳情報の提供、登山届や登山に関する相談の受理を行った。

また、山岳遭難発生の際には、迅速な捜索救助活動を展開した。

3 山荘における常駐警備活動等の実施状況

北アルプス（穂高連峰）での登山者の安全確保と迅速な救助活動を行うため、登山者が増加する夏・秋山の時期には、穂高岳山荘（標高2,996m）、冬山の時期には、西穂山荘（標高2,385m）を警備活動の拠点として40日、延べ138人が常駐し、山岳パトロールや救助活動等を実施した。

4 救助訓練の実施状況

山岳警備隊及び警察航空隊は、迅速的確な救助活動を行うため、年間を通じて訓練を実施し、体力、技術、団結力等の向上に努めた。

〔救助訓練の実施状況〕

区分	山 岳 警 備 隊			警 察 航 空 隊
	飛騨方面隊	能郷白山方面隊	恵那山方面隊	
訓練日数(日)	31	9	10	2
参加人数(人)	234	63	69	35

※ 参加人数は、延べ人数



岩場における基本訓練



山岳警備隊員と消防署との合同訓練

5 警察航空隊の出動状況

警察航空隊の出動件数は42件（前年比＋3件）で、発生件数全体の31.6％であった。

〔警察航空隊の出動状況〕

区 分 年 別	出動件数 (件)	出動回数 (延べ) (回)
令和5年	42	50
令和4年	39	44



6 遭難者の捜索救助活動状況

警察は延べ1,102人（前年比＋98人）、消防関係は延べ1,122人（前年比＋252人）、山岳救助隊は延べ65人（前年比＋10人）が捜索救助活動に従事した。

〔遭難者の捜索救助活動状況〕

区 別 年 別	発生件数 (件)	警 察		消防関係 出動人数 (人)	民 間 (山 岳 救 助 隊)		同行者等 (人)	合 計 (人)
		出動件数 (件)	出動人数 (人)		出動件数 (件)	出動人数 (人)		
令和5年	133	132	1102	1122	17	65	86	2375
令和4年	129	128	1004	870	20	55	25	1954

※ 出動人数は、延べ人数



行方不明者捜索活動



ヘリによる救助活動

第3 山岳遭難防止活動

山岳遭難を防止するため、岐阜県は北アルプス等における登山届提出義務の条例を制定しており、警察は各地区の遭難（防止）対策協議会、山岳救助隊等と連携し、登山口等における登山者への安全指導及び情報提供、登山道の調査、道標・危険箇所の点検・整備等を実施した。

1 安全指導活動

(1) 山岳パトロールにおける安全指導と危険箇所の点検

主要山系において、山岳警備隊員や民間の山岳救助隊員が、山岳パトロールを実施し、登山方法や危険箇所等について、登山者に直接指導するとともに、登山道における危険箇所の点検を実施した。

また、金華山、鳩吹山など、いわゆる低山と呼ばれる身近な山においても、登山者への安全登山広報や登山道における危険箇所点検を実施した。



安全指導活動（新穂高）



安全指導活動（金華山）

(2) 山岳遭難防止対策

○ 各種活動に参加

山岳遭難防止対策として、岐阜県が主催する山岳遭難防止対策連絡会議、各種催事における山岳広報セミナーに参加し、安全登山を呼びかけた。

○ 登山マップの配布

遭難発生場所や危険箇所を掲載した「北アルプス登山マップ」を登山者へ提供及び宿泊施設、登山用品店等へ配布した。

○ 登(下)山届ポストの設置

入山直前でも登山届を提出できるように、北アルプス等の各登山口に、登(下)山届ポストを設置している。



夏山フェスタ広報



北アルプス登山マップ



登(下)山届提出案内

2 広報啓発活動

新聞、ラジオ、テレビなどの各種メディアに対し、登山者が増加する時期ごとに、北アルプスの山岳情報や登山における注意事項を情報提供している。

○ 岐阜県警ホームページでの情報提供

アドレス <http://www.pref.gifu.lg.jp/site/police/4157.html>

QRコード



○ 岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会のホームページでの情報提供

アドレス <https://www.kitaalpsgifu.jp/>

QRコード



○ 岐阜県警察地域課X（旧 Twitter）【山岳と清流の安全】での情報提供

QRコード



3 山岳遭難対策協議会

県内の主要な5つの山系には、山岳遭難防止と遭難者の捜索・救助を目的に、山岳救助隊を擁する民間団体の山岳遭難（防止）対策協議会が組織され活動している。



〔山岳遭難（防止）対策協議会〕

名 称	救 助 隊 名	担 当 山 系
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	北 飛 山 岳 救 助 隊	北 ア ル プ ス
白 山 山 岳 遭 難 対 策 協 議 会	白 山 山 岳 救 助 隊	白 山
御 嶽 山 山 岳 遭 難 防 止 対 策 協 議 会	御 嶽 山 山 岳 救 助 隊	御 嶽 山
能 郷 白 山 遭 難 防 止 対 策 協 議 会	能 郷 白 山 山 岳 救 助 隊	能 郷 白 山
恵 那 山 山 岳 遭 難 対 策 協 議 会	恵 那 山 山 岳 救 助 隊	恵 那 山

～ 登山計画と登山届の提出について ～

○ 登山届提出の効果

- ・ あらかじめ計画を立てることで無理な登山を防止し、体力・装備・技術にあった登山が楽しめます。
- ・ 万が一、遭難事故にあったとき、遭難場所を特定しやすく、スムーズかつ効率的な救助活動を行うことができます。
- ・ 遭難事故や噴火の発生時、家族や関係者と素早く連絡をとることができます。

○ 提出方法

- ・ 登山届ポストへの投函
- ・ 提出機関への郵送、FAX、メール等
- ・ 公益社団法人日本山岳ガイド協会「コンパス」オンライン届出
アドレス <http://www.mt-compass.com/>
QRコード



- ・ 株式会社ヤマップ「YAMAP」オンライン届出
アドレス <https://r.yamap.com/30700>
QRコード



○ 提出機関

- ・ 岐阜県防災課～条例対象エリアのみ

北アルプス地区、活火山地区(御嶽山、焼岳、白山、乗鞍岳)

〒500-8570 岐阜市藪田南2丁目1番1号

岐阜県 危機管理部 防災課

TEL 058-272-1111 (代表)

FAX 058-271-4119

メールアドレス gifu-tozan@govt.pref.gifu.jp

QRコード



- 岐阜県警察本部地域課
〒500-8501 岐阜市藪田南2丁目1番1号
岐阜県警察本部 地域部 地域課
TEL 058-271-2424 (代表)
FAX 058-274-0698
メールアドレス gifupolice-tozan@govt.pref.gifu.jp
QRコード



- 地元警察署又は交番、駐在所
- 岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会事務局（北アルプス地区のみ）

～北アルプス地区・活火山地区における登山届の義務化について～

「岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例」により、北アルプス地区、活火山地区（御嶽山、焼岳、白山、乗鞍岳）の登山に対して、登山届の提出が義務付けられています。

- 問い合わせ先
岐阜県 危機管理部 防災課
TEL 058-272-1111 (代表)
- 岐阜県庁ホームページ
アドレス <https://www.pref.gifu.lg.jp/pege/11975.html>
QRコード



令和6年3月発行

発行 岐阜県警察本部地域部地域課



RAI(ライ)

REN(レン)



岐阜県警察ホームページ